

世界で最も世界レベルの美しい富山湾・海越しの立山連峰・氷見美食の地産料理・安心して住めるまち。近くの人にとっては当たり前でも外の人にはとても魅力的な土地で観光地として育ってきました。

しかし近年、観光の旅モデルそのものも変化してきました。観光産業が大きく発展した高度成長時代からバブル経済を迎えるまでの間、旅行の形態は大型団体旅行が主流でした。どの観光地でも大型バスの駐車場を整備し、宿泊施設は団体旅行を受入れるための宴会場等の施設を完備することで大きく発展してきたのですが、現在は大型団体旅行が減り個人旅行や FIT など少数グループ旅行へと形態が変化し、旅行者一人一人が自分のライフスタイル に合うサービスを求め、かつてのマニュアルでは対応できない局面を迎え、観光に対する大きな意識改革も求められています。

観光による豊かなまちづくり、つまり観光振興を基盤としたまちづくり、これは地域のあらゆる資源をもっと活用し交流を促進する、まちの魅力や活力を高める活動、そして地域内外の多様な人びとの交流を通じて、地域活性化に向けた内発力を生み出す手段なのです。観光交流活動を行うことで地域外から知識やノウハウを取り入れ、地域社会の内発力の向上に結びつけるということも重要です。

今後更に人口減少が進行することが予想されています。それによる地域内消費の減少により地域経済は縮小し、さらなる地域間格差の拡大も懸念されます。さらに少子高齢化も進行し、2025年には日本の総人口の約30%と、およそ3人に1人が65歳以上になると見込まれています。氷見市も消滅可能都市となってしまいました。この状況下において、政府が経済波及効果・雇用創出効果の高いツーリズムつまり観光に寄せる期待が更に高まっています。

つまり観光は現日本の地域発展の礎ともいえます。その意義は前に述べたように人口が減っていく中で、観光産業は経済を守り社会が活性化するという非常に大きな意味を持ちます。インバウンドとアウトバウンドの交流、国際間でいえば双方の人々がお互いに行き来することによって、お金が動くうえ、お互いの文化を理解するという、相互交流平和外交といった大きな側面もあり、ま

た経済面とは別に、外の人と触れ合う交流による生きがいの創出といった側面もあるかと思えます。そういう意味で交流を通じて経済を活性化でき、もうひとつは交流によって市民も精神的部分の潤いを得ていく大きな意義があるのです。いわゆる市民の生き甲斐にもなるものです。つまり観光の推進促進でハードもソフトも充実した、豊かで住みよいまちを創ることが可能です

講演次第 観光とまちづくり、

- ① 観光推進の必要性
- ② 富山や氷見の魅力
- ③ 発信手法 誘客手法 魅力の向上
- ④ 観光は地域創生の鍵